

避難訓練 1.17 集会

阪神淡路大震災から 29 年目の 1 月 17 日、地震を想定した避難訓練と阪神淡路大震災の追悼行事が行われました。避難訓練ではこの度の能登半島地震の印象もあり、緊迫した様子で素早く行動がとれました。

その後、体育館で生徒会を中心に阪神淡路大震災の追悼行事 1.17 集会が行われました。震災がどのようなものだったかのプレゼンをし、「希望の灯り」を分灯しました。この「希望の灯り」は、1 月 7 日に神戸で行われた分灯式で生徒会役員が直接いただいたものです。そして、生徒会長による「1.17 宣言」、黙祷を行いました。

日本に住んでいる以上、いつどこで大きな地震が発生してもおかしくはありません。また、それに伴い津波が来ることもあります。こういう訓練や過去の教訓を生かせるようにしてほしいと思います。

地震を想定した避難訓練



1.17 集会
分灯式



1.17 宣言

1995年、1月17日 午前0時46分
新しい朝が兵庫県南部を襲い、一瞬にして多くの人の大切なものを奪いました。その日から今日まで29年。今は静を争いでいて、すぐにそれとわかる震動は見当たらなくなり、本当に大地震が起きたのかと疑うほどの揺れぶりです。胸がたつにつれ、その日の記憶は薄くなってきていますが、阪神淡路大震災という大きな災害を受けた兵庫県に住む私達は、被災された方々の思いを知り、それらを次の世代に伝えていく責任があります。

日本では、一年間で約3500回地震が起きていて、大規模がいつ、どこで起きてもおかしくはありません。私たちは阪神淡路大震災の教訓を活かし、常に地震に備えながら、命を守るための対策を考えて防災・減災をすることが大切です。避難場所の確認や防災グッズの確認などについて家族や友達と話し合っておくことも防災・減災の第一歩となるはずです。

私達は1月17日を忘れずに、命を守るための行動をし、亡くなった方々の分も毎日大切に生きていくことを誓います。